

## 坪毛沢 木堰堤群



4号木堰堤

現地で調達されたヒバ被害木によって  
「昭和29年」に施工された。倒木(中央)によつ  
てゆがみが生じているものの、まだ健在である。

文と写真◎玉井 幸治 Tamai Koji

研究ディレクター

**山**道を歩いていて、溪流に設けられた小さなダムのようなものを見かけたことはありませんか？ それはもしかしたら、通称「治山ダム」と呼ばれている「治山堰堤」かもしれません。治山堰堤には、斜面崩壊が発生したときに流下する土砂を堰堤の上流側に留め、下流に被害を及ぼさないようする役割のものと、上流側での山腹崩壊を防ぐ役割のものの2種類があります。

## 青

森県五所川原市の飯詰山国有林にある坪毛沢はその昔、豪雨による山腹崩壊を繰り返し、下流に被害を与える暴れ沢として恐れられていました。そのため大正5年（昭和33年）間に11基の木製治山堰堤が設けられました。これらは「坪毛沢木堰堤群」と呼ばれ、林野庁の「後世に伝えるべき治山よみがえる緑」に選定されています。当時、コンクリート堰堤に必要な硬い石材を現地で調達できなかつたことから、現地のヒバ被害木を用いて設けられました。

## ス

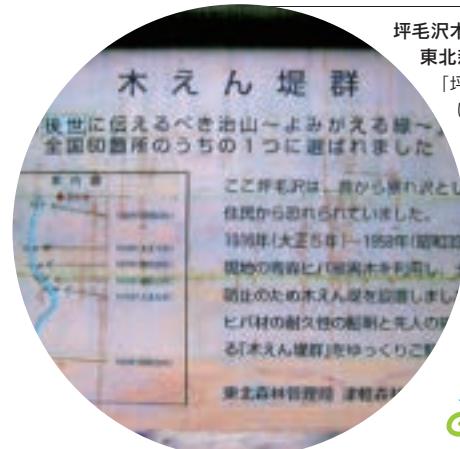
ギは植栽されてから20年ほどは根系の発達が不十分なため、山腹崩壊を防ぐ力が強くありません。そのため坪毛沢では、根系が十分に発達するまでの間、11基の木製治山堰堤が、山腹崩壊防止機能を補強する役割を担っていました。

**現**在では、坪毛沢の山腹斜面は立派なスギが小さかつた時期に山腹崩壊が発生しなかつた結果です。大正5年に設けられた木堰堤の中には、すでに死亡したものや、高さ数十センチほどの部分しか残っていないものもあり、いま坪毛沢の木堰堤群はその役割を終えつあります。 ●



3号木堰堤部材の劣化状況の調査

長年の水や土砂による摩耗のため、ヒバ材は先端が細くとがり、部材の一部は流亡している。



### 坪毛沢木堰堤群を紹介する東北森林管理局の看板

「坪毛沢木堰堤群」はいまでは、後世に伝えるべき林業遺産としての役割を果たしている。

ここ坪毛沢は、昔から恐れ沢として住民から恐れられていました。

明治年（大正5年）～1953年（昭和28年）

現地の青森ヒバの木を利用し、

現地のため木えん堤を設置しました。

ヒバ材の耐久性の証明と先人の智慧の「木えん堤群」をゆっくりご覧ください。

東北森林管理局 駒井森林管理事務所



この印刷物はグリーン基準に適合する森林資源で製造されたもの。墨は植物油で染められたグリーンインクで印刷されています。

P-810192

23.12.8000

リサイクル適性の表示：紙へリサイクル可